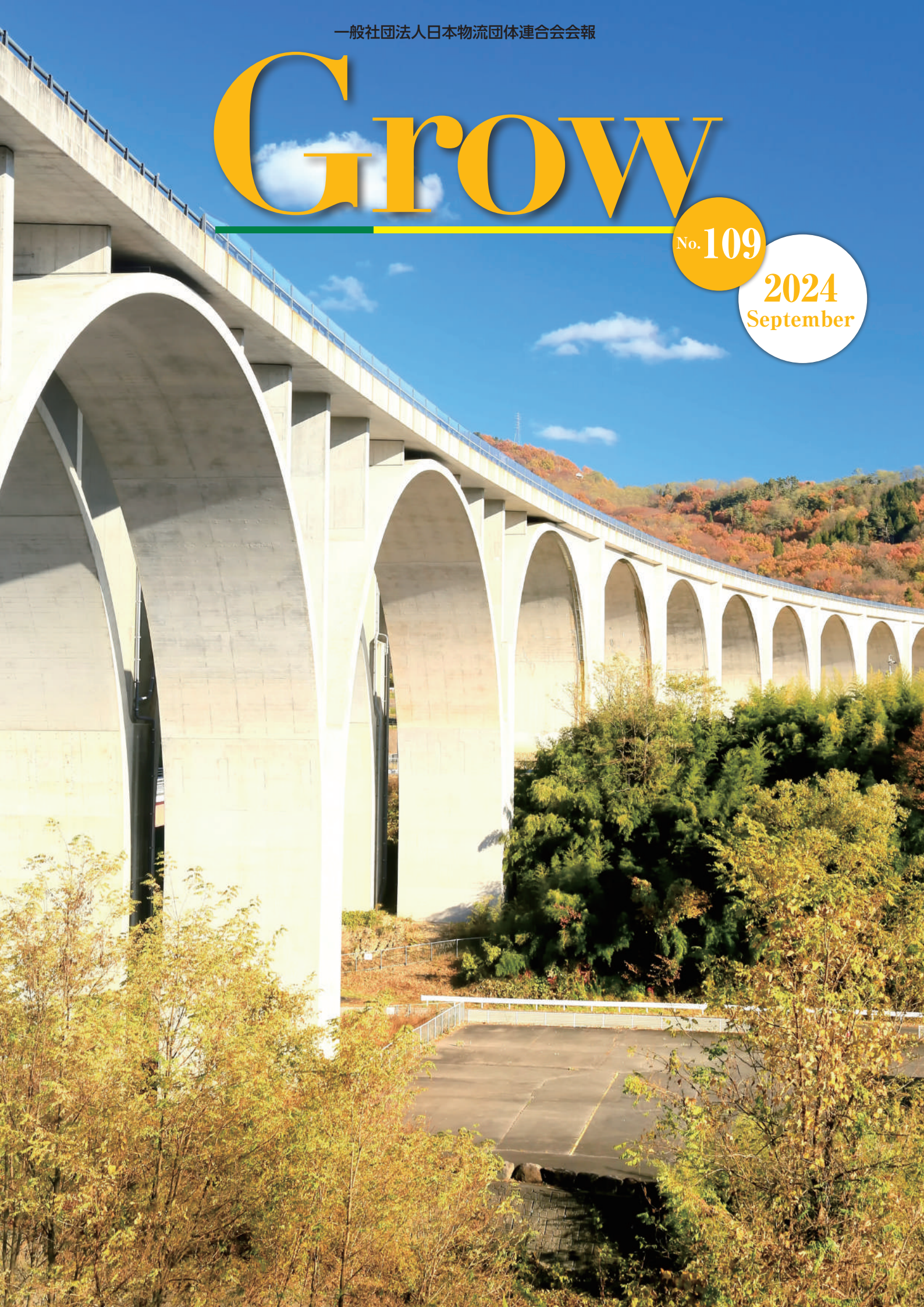


一般社団法人日本物流団体連合会会報

Grow

No. 109

2024
September



C O N T E N T S

潮流..... 1

「社員が幸せを感じる会社をつくりたい」

社員が最高のパフォーマンスを発揮することで、お客様に感謝され、社会に貢献する。

社員と会社がともに成長を続け、持続可能な社会の実現に貢献する企業グループを目指す。

齋藤 充 公益社団法人 全国通運連盟 会長

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社 代表取締役会長

令和6年度 定時総会・懇親会を開催 4

「改正物流法」説明会 7

物流環境対策委員会..... 8

・物流パートナーシップ優良事業者 2年連続大賞受賞

鈴与株式会社による異業種連携と中継輸送の講演会を開催

・小西医療器株式会社 大阪ソリューションセンターを見学

第25回「物流環境大賞」の受賞者が決定 10

物流環境大賞..... 14

味の素冷凍食品株式会社、F－L－I－N－E 株式会社

冷凍食品の環境にやさしく持続可能な幹線輸送の実現

第1回「モーダルシフト優良事業者大賞表彰」募集のお知らせ 19

令和6年度『物流業界研究Webセミナー』を開催 20

会員企業をたずねる～女性の力、女性の声 22

第一貨物株式会社 井澤 未空さん

国際業務委員会..... 24

・「インドのビジネス環境と機会」に関する講演会を開催

2023年度版「数字でみる物流」のご案内／..... 25

最近の活動状況／編集後記



令和6年度 定時総会・懇親会を開催



「改正物流法」説明会



第25回「物流環境大賞」の受賞者が決定



「社員が幸せを感じる会社をつくりたい」
社員が最高のパフォーマンスを発揮することで、
お客様に感謝され、社会に貢献する。
社員と会社がともに成長を続け、
持続可能な社会の実現に貢献する
企業グループを目指す。

齋藤 充 氏

公益社団法人 全国通運連盟 会長

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社 代表取締役会長

◆全国通運連盟会長として

——物流2024年問題への対応が社会的課題となる中、鉄道利用運送事業の役割についてお聞かせください。

鉄道貨物輸送は1列車の運行で10トントラック65台分を運べるため、今後のトラックドライバー不足を補う輸送モードとして期待されています。連盟では鉄道コンテナ輸送の拡大に向けた広告宣伝活動を継続的に実施していますが、まだまだ鉄道コンテナ輸送を認知していないお客様も多いと認識しています。今後さらなる利用拡大に向けた各種事業を実施していきます。

——貨物鉄道キャリアであるJR貨物との関係についてはいかがお考えでしょうか。

JR貨物とは、連盟主催の委員会として、約毎月1回連盟企画政策委員とJR貨物ロジスティクス本部長以下各部長との「鉄道貨物協議会幹事会」や連盟会長以下常任理事とJR貨物役員が集い年2回「鉄道貨物協議会」を開催し、情報交換や各種協議を実施しています。また、毎年10月にJR貨物、鉄道貨物協会と共催で「コンテナ輸送品質向上キャンペーン」を開催し、輸送品質の向上への取り組みも行っています。今後も鉄道コンテナ輸送の拡大に向け協調関係を継続していきます。

——国土交通省において今後10年でモーダルシフト化率を倍増する方針が出されていること、およびそのための公的支援制度が拡充されていますが、これらについていかがでしょうか。

昨年度の「我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議」において、「物流革新に向けた政策パッケージ」および「物流革新緊急パッケージ」が策定され、今後10年程度で国内物流での鉄道貨物輸送量・分担率を倍増、31フィートコン

テナ等のコンテナの大型化を推進するとの方針が示されました。これに基づき、令和6年度国土交通省物流・自動車局関係予算において「モーダルシフトの推進」他大きな予算が計上されました。連盟としては、31フィートコンテナ等の大型コンテナの利用促進に向けた補助事業の拡充や支援制度の周知を図っていきます。

——鉄道利用運送業界として、環境対策や環境負荷低減に向けた取り組み等についても進めておられると思います。

連盟では、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた鉄道利用運送業界のビジョンを定め、本年度は達成に向けた取り組みメニューを策定し、会員向けにリーフレットを配布して、その内容について周知を図っています。その取り組みメニューは「エコドライブ等の推進」「集配車両の大型化」「共同集配の推進」「EV等の脱炭素化車両の活用」「カーボンクレジットの活用」としています。

◆NIPPON EXPRESSホールディングス会長として

——最近の景気や物流の動向について、どのように見ていらっしゃいますか。

物流需要は、国内外ともに昨年末から底打ち感があるものの力強さにかける状況で推移してきましたが、徐々に持ち直しており、足下の実績をみると航空貨物、海運貨物の荷量が回復してきました。景気動向については、米国経済の先行き懸念や中国経済の減速傾向などから金融・為替相場に大きな変動を及ぼしており、その動きには注視が必要ではありますが、物流需要、特に輸出入に対してはプラス・マイナス両面に働くことから、大きな視点で捉えたいと考えています。国内の荷動きは各種調達コストの上昇などもあり回復が弱い状況にありますが、国内外

ともに荷動きは年後半に向けて回復すると見込んでいます。

——貴グループ長期ビジョン「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」の実現に向け、HD体制への移行、グループブランドの導入やグループ事業の再編など、ここ数年、改革・変化を加速させておられますが、それらの手応えについてはいかがでしょうか。

HD体制の始動、NXブランドの導入、GBHQ(グローバル事業本部)の設立、グループ事業の再編、監査等委員会設置会社への移行などを着実に実行し、グローバルで競合他社と戦っていける体制の整備が進み、一定の成果を上げています。変革を進めるなかで、従業員の意識や企業風土も変化してきました。長期ビジョンの実現に向け、スピードを上げて取り組んでいきたいと思っています。

——ウクライナ情勢、パナマ・スエズ両運河の事実上の通航制限や、世界各国で選挙イヤーを迎えていることなどの地政学的リスクがある中、貴グループの経営戦略「グローバル市場での成長の加速」を進めておられます。

当社が果たすべき責務として、お客様のグローバル・サプライチェーンを全力で支えて、何としても供給を止めることなく維持することを最優先に取り組んでいます。いかにサプライチェーンの持続性・効率性・健全性を向上させ、強靱化を図っていくかを重要な課題として取り組んでいます。突発的な事象が発生した際の事業継続性を高めるための危機管理体制を整えて、リスクに対する事業基盤の強化を図っています。一方で、グローバル市場での安定的な事業成長の実現に向けた取り組みを、海外各リージョンを含めたNXグループ全体で進めています。

地政学的リスクには、短期的には代替ルートの開拓やNXグループの多様な輸送モードの活用で対応し、中長期的には世界各リージョンでのビジネス領域を拡大して、お客様にワンストップで強靱なサプライチェーンを提供し続け、グローバル市場における存在感を確立していきたいと考えています。

——我が国においては、人口減少、労働力不足、緩和されたとはいえ長引く円安や、今後予想される金利上昇など長期的な課題を抱えていますが、「日本事業の再構築」についてのお考えをお聞かせください。

日本事業の再構築は重要戦略の一つです。これまでは日本国内を画一的に捉えてきましたが、東京・名古屋・大阪などをはじめとする大都市圏と全国の各地域とではマーケットの規模や産業特性は異なっており、経営のあり方は必然的に変わってきます。各エリアの特性に合わせて目標や戦略を策定し、マーケットに即した事業体制を構築します。

成長が見込まれる領域に経営資源を投入し、日本事業を収益性と資本効率性の高い組織へ変革していきます。

——物流企業のトップランナーとして、高くかつ広いレベルで取り組んでおられる「サステナビリティ経営の推進」について、特に「人権の尊重」については、国内のみならずグローバルに事業を展開される中で重視されているとお見受けします。

NXグループは、グループ企業理念に「物流を通じて社会に貢献し、豊かな未来を創る」を掲げており、社会と共に持続的に成長するために、サステナビリティ経営を実践しています。NXグループとして取り組む重要課題は、国際的な潮流を踏まえて定期的に見直しを行っており、現在は、次の5つの重要課題(マテリアリティ)に取り組んでいます。サステナブル・ソリューションの開発・強化、グローバル・サプライチェーンの強靱化、気候変動への対応強化、イノベーションを生む人財力の向上、人権の尊重と責任ある企業活動の実現の5つです。脱炭素社会や資源循環に関わるソリューションの開発・提供、自然災害をはじめさまざまなリスクが高まる中での安定的なサプライチェーンの実現、NXグループカーボンニュートラルに向けた取り組みを進めています。

人権の尊重については、NXグループは、社会から求められ信頼される存在であることを企業理念に掲げており、人権の尊重は当社グループの価値創造や社会からの信頼の土台にあります。国内外におけるビジネスにおける人権への社会要請の高まりやお客様・取引先からの期待を踏まえ、2023年にNXグループ人権方針を策定・公表しました。このNXグループ人権方針のもと、グループ全体で一貫して人権尊重を踏まえた責任ある事業活動に取り組んでいます。

——最後に、経営信条についてお聞かせください。

「社員が幸せを感じる会社をつくりたい」と伝え続けています。自分たちの仕事に自信と誇りを持って活躍できるように、安心して働くことができる環境を整えてきました。社員が幸せになることが最高のパフォーマンスを発揮することにつながり、その結果お客様に感謝され、株主様をはじめ全てのステークホルダーの皆様へ貢献する。自分たちの仕事为社会から信頼されることを誇りに感じて社員は幸せを実感する。こうした思いや価値観を大切に、組織・体制を整えてきました。小さな例ではありますが、服装の自由度を高めて、社員が生き生きと働けるような仕掛け作りをし、社員同士の呼び名を「さん」づけにするなどにより、職場環境や企業風土を変えてきました。

社員と会社がともに成長を続け、世界中のお客様から選ばれ、持続可能な社会の実現に貢献する企業グループでありたいと考えています。

NXグループ長期ビジョン

NXグループ企業理念

私たちの使命 それは社会発展の原動力であること
私たちの挑戦 それは物流から新たな価値を創ること
私たちの誇り それは信頼される存在であること

2037年ビジョン

グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー



- 顧客・会社** 持続可能な社会の実現に、ロジスティクスを通じて貢献する企業
- 株主** コーポレートガバナンスを確立し、持続的成長を果たす企業
- 社員** 多様な社員が、顧客や社会を支える仕事に誇りを持って活躍し、幸せを感じる企業

大切にする価値観

イノベーションによる新たな価値創造
安全 コンプライアンス 品質
We Find the Way

2037年ビジョン(ありたい姿)

NXグループは、企業理念を拠り所として、創業以来、ものを運ぶことを通して、人、企業、地域を結び、社会の発展を支えてきました。この変わらぬ使命を果たすため、社会の変化をとらえ、自らを進化させ続けます。また、安全に徹し、環境に配慮し、世界を舞台にすべての力を結集して、物流から新たな価値を創造することに挑戦していきます。そして、いつの時代にも、社会から求められ、信頼されることを誇りに行動します。

この企業理念に込められた想いを実践していくために、創立100周年の節目となる2037年のありたい姿として「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」に成長することを長期ビジョンに掲げております。

長期ビジョンの実現には、ロジスティクスを通じて持続可能な社会の実現に貢献する企業であり続けるとともに、NXグループ自らが持続的な成長を果たす企業であり続けなければなりません。そのためには、多様な社員が、お客様や社会を支える仕事に誇りを持って活躍し、幸せを感じる企業であり続けられるよう邁進してまいります。

大切にする価値観

「安全・コンプライアンス・品質」に対するこだわりを基本とした現場力、企業メッセージ「We Find the Way」に表現されるお客様第一の姿勢は、大切にする価値観としてこれからも徹底的にこだわっていきます。

加えて、NXグループが グローバル市場での成長を加速していくために、グループ・グローバルで全体最適でありたい姿・長期ビジョンに対するバックキャストで物事を捉えられるよう社員一人ひとりの意識と行動を変容させ、自律的で挑戦的な価値観を醸成させる企業風土への変革を進めてまいります。そのような変革を通して、NXグループが「イノベーションによる新たな価値創造」、つまり、ロジスティクスを通じてお客様や社会へ新たな価値を提供していくことで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

そして、その先にある「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」という姿を、グループ全体で共有し、その実現に向け進んでまいります。

令和 6 年度

定時総会・懇親会を開催



令和5年度決算、役員選任等を決議

6月28日、東京都港区の第一ホテル東京で令和6年度定時総会を開催しました。

真貝会長の挨拶、国土交通省の鶴田浩久物流・自動車局長からの祝辞に続き、真貝会長が議長となって議事を進行。各委員長から令和5年度事業についての報告、令和5年度決算、役員選任などの議案が原案通り承認されました。

役員人事では、新副会長として、ANAホールディングス取締役会長の片野坂真哉氏、公益社団法人全国通運連盟会長およびNIPPON EXPRESSホールディングス代表取締役会長の齋藤充氏、ヤマトホールディングス代表取締役社長 社長執行役員の長尾裕氏、一般社団法人日本倉庫協会会長および三菱倉庫株式会社取締役会長の藤倉正夫氏の就任が決定しました。



挨拶する真貝会長



来賓の国土交通省鶴田局長

新役員のご紹介

◆ 新任副会長

片野坂真哉氏 ANA ホールディングス株式会社 取締役会長

齋藤 充氏 公益社団法人全国通運連盟 会長

NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社 代表取締役会長

長尾 裕氏 ヤマトホールディングス株式会社 代表取締役社長 社長執行役員

藤倉 正夫氏 一般社団法人日本倉庫協会 会長

三菱倉庫株式会社 取締役会長

◆ 新任理事長

河田 守弘氏 一般社団法人日本物流団体連合会 理事長

◆ 新任理事

入谷 泰生氏 一般社団法人日本長距離フェリー協会 会長

木村 宗徳氏 一般社団法人国際フレイトフォワードーズ協会 会長

西川 和宏氏 ロジスティード株式会社 副社長執行役員 (CJBO 兼 CMO)



総会の様子



各委員長からの報告



監査報告



総会終了後に行われた記者会見

懇親会を盛大に開催

総会の終了後には、懇親会場「ラ・ローズ」に場所を移し、懇親会を開催しました。

斉藤鉄夫国土交通大臣をはじめ政界・官界からも多数の来賓が出席し、盛会のうちに終了しました。



来賓の斉藤国土交通大臣



挨拶する真貝会長



栗林副会長の音頭による乾杯



新任副会長紹介



「改正物流法」説明会

「**改**正物流法」は、「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律及び貨物自動車運送事業法の一部を改正する法律」の略称ですが、「物流の2024年問題」に対応し、物流の持続的成長を図ることを目的として、第213回国会において法律案が審議され、令和6年4月26日に可決成立し、5月15日に公布されました。

この「改正物流法」は、トラックドライバーの賃上げ原資の確保や物流の生産性向上を図るため、荷待ち・荷役時間の削減や多重下請構造の是正等を進めるため、荷主・物流事業者に対する規制措置を導入することを主な内容としており、このうち「改正物流効率化法」の施行に向けては、今後政省令等に定める基本方針や判断基準、特定事業者の指定基準等の具体的な内容などについて、現在国において有識者による会議を立ち上げ、令和6年秋を目途とした取りまとめに向けて、議論を進めているところです。

そこで今般、この改正物流法について、会員の皆様に対して理解を深めていただき、また疑問点を解消していただくことを目的として、国土交通省物流・自動車局物流政策課林田課長補佐を講師に迎え、6月11日（火）、東京都千代田区の全日通霞が関ビル8階会議室において、物流連主催「改正物流法」説明会を開催しました。

当日は会場・オンライン合わせて約200名が参加し、林田課長補佐から約90分にわたり法律の概要を説明していただき、その後、活発な質疑応答が行われました。

物流連では今後も、会員の皆様の一助となるよう、時機をとらえてこのような取り組みを実施してまいります。



説明会の様子



説明を行う国土交通省課長補佐
林田 雄介氏

物流パートナーシップ優良事業者 2年連続大賞受賞 鈴与株式会社による異業種連携と中継輸送の講演会を開催

令和6年度 第1回「物流分野における低炭素・脱炭素化推進に向けた情報交換会」を実施

6月5日(水)、全日通霞が関ビルディング(千代田区霞が関)で令和6年度 第1回「物流分野における低炭素・脱炭素化推進に向けた情報交換会」を実施しました。

鈴与(株)による講演会を開催

基調講演として、鈴与株式会社運輸事業営業部特任部長兼営業課長の齋藤宏行氏を講師に招き、「物流における環境負荷軽減の取り組み」と題して講演いただきました。鈴与株式会社は当連合会が国土交通省、経済産業省、日本ロジスティクスシステム協会(JILS)と共催している「物流パートナーシップ優良事業者表彰」制度にて、令和4年度、5年度と2年連続で国土交通大臣賞(大賞)を受賞しています。それを記念し、今回は、大賞を受賞した取り組みである異業種連携の共同輸配送、中継輸送について講演していただきました。物流事業者にとって、共同輸送と中継輸送は「物流の2024年問題」の解決に向けて非常に効果的な取り組みでもあるため、講演は物流事業者だけでなく荷主企業からも聴講がありました。内容も「異業種連携



講演を行う鈴与(株) 齋藤宏行氏



講演会の様子

の難しさ」、「中継輸送の問題点」など物流事業者の関心を引くもので、取り組み内容について自社に引き合わせて考えることができる内容となっていました。

講演後は「EV車両は導入検討するのか」、「浜松地区の中継拠点はどういった倉庫を新設するのか」といった具体的な質問が挙がり、活発な質疑応答となりました。

参加メンバーによる情報交換

「自社の物流提案を通じてお客様の温室効果ガス排出量の削減を実現することができるか」を主題として45分間の情報交換を行いました。講演後の齋藤氏にもオブザーバーとして参加いただき、中継輸送、低床車両についてコメントをいただきました。

最近さまざまな物流企業でサステナビリティに対する専門部署ができつつあり、会には新しいメンバーも増えています。メンバーはカーボンニュートラルについて手探りで情報を入手していることも多く、悩みを抱えながら対応している状態です。そのような中、カーボンニュートラルに対してのメリットデメリット、答えの出ない問題の共有など、同じ物流事業者としての事例を聞くなどして、各社に参考としていただきました。



小グループの意見交換に参加する鈴与(株)齋藤氏(左)

小西医療器株式会社 大阪ソリューションセンターを見学

令和6年度 第2回「物流分野における低炭素・脱炭素化推進に向けた情報交換会」を実施

施設見学会を開催

7月10日（水）、シップヘルスケアホールディングス株式会社のグループ会社である小西医療器株式会社大阪ソリューションセンター（大阪府門真市）の施設見学会を実施しました。

オープンイノベーションの場としてさまざまなメーカーとの共同開発で誕生したこの「大阪ソリューションセンター」は、『業界初の最新物流技術による生産性・正確性を追求した次世代型の医療材料物流「スマートメディカルソリューション」により、さまざまな課題を解決するとともに、価値ある物流を届けることを目指し、新しい医療材料物流を切り開くこと』を目的として開設されました。

RFIDラベルを用いた商品管理、無人搬送車（AGV）、自動ラック倉庫など最先端の取り組みを2チームに分かれて見学し、活発な質疑応答がなされました。

その後、大阪市内の会議場へ場所を移し、今回見学した内容と、参加メンバー各社の最近のカーボンニュートラルへの取り組みについて、メンバー間で意見交換を行いました。

「物流分野における低炭素・脱炭素化推進に向けた情報交換会」は定期的実施していきます。引き続きメンバーの意見を取り入れながら、皆様の業務に役立つ情報交換会を運営していきますので、たくさんのご参加をお待ちしています。



施設の入り口には歓迎のサイネージを掲示していただきました



施設内の作業風景

第25回「物流環境大賞」の受賞者が決定

6月28日(金)、第一ホテル東京(東京都港区)にて、物流環境大賞の表彰式を行いました。環境にやさしい物流を目指す意識は年々高まりを見せ、今年も多くの案件をご応募いただきました。各社の取り組みをご紹介します。



真貝会長



野尻俊明物流環境大賞選考委員長

第25回表彰受賞者の概要

物流環境大賞

受賞者: 味の素冷凍食品株式会社

F - L I N E 株式会社

案件名: 冷凍食品の環境にやさしく持続可能な
幹線輸送の実現

千葉県から宮城県までの冷凍食品輸送について、冷凍トラックによる輸送からの鉄道輸送(隅田川駅～仙台貨物ターミナル駅)に転換した。これにより冷凍トラックの使用台数を減らすことができ、CO₂排出量を削減した。

冷凍食品は温度管理が厳しく、鉄道輸送への転換が難しかった品目の一つで、特に中距離帯(400km)圏内は珍しい取り組みである。



また、鉄道、トラックの2パターンで輸送していた長距離帯(1,000km以上)九州発貨物についても、鉄道・船舶輸送比率を向上させてCO₂排出量を削減した。今後、さらなる環境保全の推進や、物流の健全な発展に貢献が期待される。

低炭素物流推進賞

受賞者: 大成ユーレック株式会社

日本通運株式会社

日本貨物鉄道株式会社

案件名: 建築現場のプレキャストコンクリート部材輸送における
鉄道輸送の導入

埼玉県にある工場で作られた建築資材のプレキャストコンクリート※部材輸送について、階段や柱など、従来は大型トラックで運んでいた資材を12ftコンテナに収まるサイズ、重さで製造してコンテナに格納し、幹線部分に鉄道を使って各建設現場へ輸送することでCO₂排出量を削減した。今後も全国各地の建設現場に12ftコンテナでの輸送を進めるほか、同社



所有20ft専用コンテナの開発にも着手して鉄道輸送の割合を増やしていく。

※プレキャストコンクリート: 予め工場で作られたコンクリートのこと。輸送時間を加味しても、現地で作るより施工時間が短く済むメリットがある。

低炭素物流推進賞

受賞者: ネスレ日本株式会社

案件名: ペットボトルコーヒーの中距離帯輸送における
鉄道モーダルシフト

静岡県から関西地区のペットボトルコーヒーの輸送について、トラックによる陸送から貨物鉄道輸送（静岡貨物駅～百済貨物ターミナル駅）に転換した。毎日200t＝12ftコンテナ40本分を5列車に分けて輸送し、この取り組みにより、年間でトラックは4000台、CO₂排出量を大幅に削減できる見込みである。食品・飲料業界初*の中距離帯（300km）でのモーダルシフトを実現したことによって、他の荷主企業へ貨物鉄道



輸送を啓発するとともに、今後もより貨物量の多い中距離輸送の新たな輸送網の構築に積極的に取り組んでいく。

※ 1社で200トン／日規模の輸送において、ネスレ日本、JR貨物調べ（2024年1月末時点）

受賞者: フジパン株式会社

株式会社リョーユーパン

株式会社フランソア

株式会社タカキベーカリー

佐川急便株式会社

案件名: 九州大分県下のパン共同配送プロジェクト

大分県内におけるパンの輸配送について、共同配送センターを設けることで製パンメーカー4社の商品を集約、パンの共同配送を実現した。年間で車両台数を36%抑制し、CO₂排出量を削減した。30年前から製パンメーカーによる共同配送の構想はあったが、



佐川急便(株)のセンターを活用することで共同配送を実現することができた。今後、大分県内ではパン以外の日配品でも共同配送を広げ、九州の他エリアでもパンの共同配送を進めていく予定である。

サステナブル活動賞

受賞者: 日本通運株式会社

案件名: 建材端材の複数品目同時回収

(石膏ボード・グラスウール・岩綿吸音板端材の再資源化)

今までリサイクルされることなく埋め立て処分されていた建材端材の一部品目を、キャスター付き専用回収容器「NRBOX」を利用して回収することで、建材原料として再資源化した。容器は観音開きのかご車タイプで異物混入がわかりやすく、専門工事業者ごとの建材端材の管理・回収が可能となり、回収できた端材に関してはすべてリサイクルして資源となっている。



各種品目・建材端材の同一車両による運搬が可能になったため、回収車両台数を削減することによってCO₂排出量を削減した。今後、順次、複数品目の回収現場を拡大していく予定で、環境負荷低減に貢献していく。

第25回「物流環境大賞」の受賞者が決定

日本物流記者会賞

受賞者: 佐川急便株式会社

案件名: 輸送に使用したストレッチフィルムの再利用

これまで産業廃棄物として処理していた使用済みストレッチフィルムを回収、再利用してエチレン製ゴミ袋などの原材料として活用し、有価物として販売した。製造されたゴミ袋は佐川急便(株)も購入している。2022年度は約24tの使用済みストレッチフィルムをごみ袋へリサイクルして、CO₂排出量を削減した。また、ストレッチフィルムの使用量削減のため、



繰り返し使用可能なグリーンベルトを活用した養生にも取り組む。今後は、現在89か所あるフィルムの回収箇所を順次増やし、取り組みを拡大予定である。

特別賞(五十音順)

受賞者: カバヤ食品株式会社
リンク&リンケージ株式会社
株式会社ロッテ
株式会社曙運輸
全国通運株式会社
日本貨物鉄道株式会社
日本石油輸送株式会社

案件名: 31ftスーパー URコンテナを活用したラウンドマッチング輸送の取り組み

受賞者: 佐川急便株式会社
株式会社ユーグレナ

案件名: ユーザーも参画する「サステナブル配送プロジェクト」とプロジェクトの仕組みを横展開したトライアスロン大会用品の輸送

受賞者: 共栄社化学株式会社

案件名: 陸送から海運へのモーダルシフト推進

受賞者: 佐川急便株式会社
西濃運輸株式会社

案件名: 本州最北端の青森県下北郡向け荷物の共同輸配送

受賞者: 株式会社クラベ
ユニ・チャーム株式会社
鴻池運輸株式会社
ロジスティードエクスプレス株式会社
ロジスティード株式会社

案件名: 二社間のコンテナラウンドユースによるCO₂排出量削減への取り組み

受賞者: 山九株式会社
三井化学株式会社

案件名: 物流導線と輸送手段の変更によるCO₂削減の取り組み

受賞者: 山九株式会社
三井化学株式会社
徳山通運株式会社

案件名: 鉄道輸送を活用したCO₂削減の取り組み

受賞者: ヤマト株式会社
株式会社カナメカーゴ

案件名: 「自転車の幹線輸送」鉄道輸送へのモーダルシフトチャレンジ

受賞者: 新日本海フェリー株式会社
キリングroupロジスティクス株式会社
マリネックス株式会社

案件名: 長野県～北海道間の飲料フェリー輸送における輸送効率の向上

受賞者: 株式会社 ランテック

案件名: フェリー無人航送を利用した九州・関西間のモーダルシフト

受賞者: セイノーホールディングス株式会社

案件名: 九州向け「北大阪輸送ハブ」の開設による、輸送効率化とCO₂排出量削減の実現

受賞者: 株式会社ロジスティクス・ネットワーク
株式会社ウオロク
株式会社シノプス

案件名: 需要予測発注システムを活用したリードタイム延長によるCO₂削減

受賞者: 東京九州フェリー株式会社
株式会社ブリヂストン
ブリヂストン物流株式会社
マリネックス株式会社

案件名: 栃木県～福岡県向けタイヤ輸送トラック輸送からトレーラー輸送に全量転換

受賞者: 株式会社ロジスティクス・ネットワーク
ニチレイロジグループ地域各社

案件名: 次世代輸配送システム「SULS」(サルス)を活用したCO₂削減

受賞者: 日本梱包運輸倉庫株式会社

案件名: ダブル連結トラック乗り継ぎ運行(北関東～広島)によるCO₂排出量の削減

受賞者: ASブレーキシステムズ株式会社
碧南運送株式会社
鈴与株式会社
鈴与カーゴネット株式会社

案件名: 陸上輸送からフェリー輸送への切替によるCO₂ならびに乗務員拘束時間の削減

受賞者: 日本通運株式会社

案件名: 「プロテクトBOX with Fresh Logi」によるエコな保冷輸送の実現

受賞者: 三井倉庫株式会社
いすゞロジスティクス株式会社

案件名: 横浜港湾地区でのコンテナラウンドユース～港混雑の解消、CO₂削減に向けた貢献～

受賞者: SBS東芝ロジスティクス株式会社
株式会社ジャパンディスプレイ

案件名: ガラス液晶パネル輸送における、DFL (Design For Logistics) による包装材料削減と輸送効率向上

物流環境大賞

第25回
「物流環境大賞」

受賞者

味の素冷凍食品株式会社 F－L－I－N－E 株式会社

冷凍食品の環境にやさしく 持続可能な幹線輸送の実現

はじめに

味の素冷凍食品株式会社とF－L－I－N－E株式会社は約20年前から冷凍食品の幹線輸送に鉄道31ftコンテナを導入する等、地球環境に配慮した輸送にいち早く取り組んできました。

しかし、近年物流分野においても更なる環境との調和が重要となっており、地球環境に優しく、且つ持続可能な物流のあり方を両社は常に模索し、「2024年問題」が身近に迫る数年前からは、トラック輸送に過度に依存するのではなく、且つ長距離/中距離の輸送距離に縛られる事なく、鉄道、船舶輸送の更なる拡大の余地が無い毎月開催される定例会において意見をぶつけ合い検討してきました。

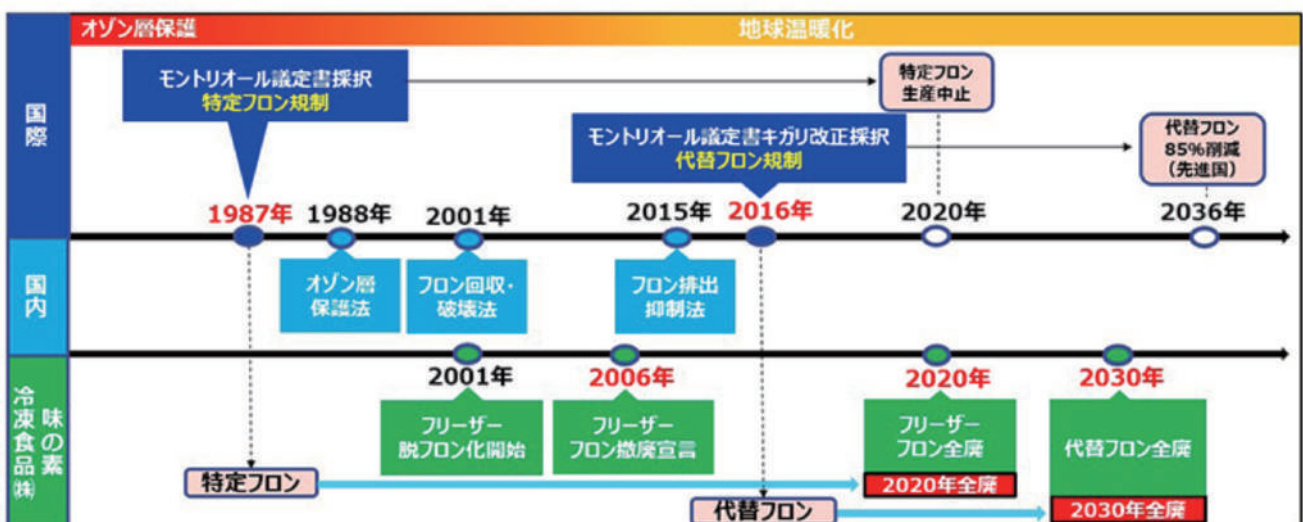
環境への取り組み

味の素冷凍食品株式会社は「おいしさNo.1」「楽しさ」「健康・栄養」に加え、「環境への配慮」で突

き抜けた、唯一無二の存在になる事をビジョンとしています。

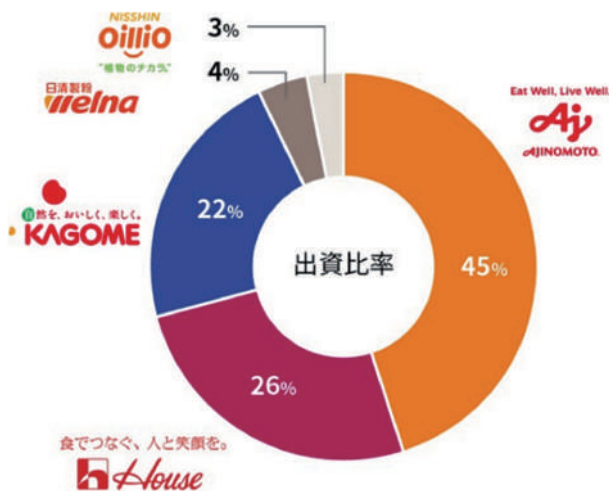
冷凍食品は製品を冷凍するために大型フリーザー（製品を急速凍結する設備）を使い、それには冷媒としてフロン（HCFC冷媒＝オゾン層破壊や地球温暖化に悪影響を及ぼす）が使われてきました。しかし、大気中に放出された「フロン」がオゾン層を破壊する事が解明され、1985年南極にオゾンホールが発見されると世界中で大問題になり、日本国内でも1988年「オゾン層保護法」、2001年「フロン回収・破壊法」が制定され、冷媒としての「フロン」規制は厳しくなっていました。

そこで味の素冷凍食品株式会社は2006年には同じ課題を抱える業界全体で世の中を変えていく事ができたらよい、という願いも込めて「フリーザーフロン全廃」宣言を行い、冷凍食品業界で初めて、国内全工場の大型フリーザーで使用しているフロンを全廃し、自然冷媒への転換を2021年3月に完了しました。





F-LINE株式会社は、2015年2月に国内食品メーカー6社による「食品物流プラットフォーム」構築が合意となり、「競争は商品で、物流は共同で」の基本理念のもと、2019年4月に味の素株式会社、ハウス食品グループ本社株式会社、カゴメ株式会社、株式会社日清製粉ウェルナ、日清オイリオグループ株式会社の食品メーカー5社の出資により、物流子会社である味の素物流株式会社、カゴメ物流サービス株式会社、ハウス物流サービス株式会社（事業の一部）の物流事業を統合して誕生しました。



食品物流を中心に、永続的な物流競争力の実現をめざし、「温度帯の壁」「商品特性の壁」「企業の壁」「流通の壁」「国際間の壁」など、「壁」を超える取り組みを実践し持続可能な「物流サービス」を提供し続け、長距離幹線輸送に関しては、自然災害に強い物流体制の構築と、輸送手段の多様化とCO₂排出量削減を目指し、モーダルシフトを進めています。

冷凍食品輸送の特徴

まず、食品輸送は運ぶ荷物が最終的には皆さまの口に入るモノであり、安心して皆さまが食していただけるように食の安全という観点で運ぶ使命があります。

その中で冷凍食品輸送は、1.ほとんどがバラ積みバラ降ろしである。2.多くのアイテムがある。3.パレット規格が統一されていない。4.バラ積みバラ降ろしのため荷役作業の時間がかかる。5.更に、検品に時間がかかり長時間労働になりがち。6.物量の波動が大きい。7.厳しい温度管理が求められる。このような特徴からトラック輸送が基本となっています。

この様に冷凍食品の幹線輸送は輸送環境に制約が多く、且つ荷主から求められる品質基準も高く、ドライバーへの作業負荷が大きいという実情があります。また、社会的にドライバーの高齢化や若年層のドライバー離れは加速的に進んでいることから、両社はトラック輸送の依存度を下げ、同時に特定のドライバーでしか運べない（制約が多いためドライバーが限定される）輸送から、どのようなドライバーでも対応出来る輸送方法への進化を目指す事としました。



更なる環境取り組みと持続可能な冷凍食品幹線輸送の実現

両社は更なる環境取り組みとしてCO₂排出量削減と持続可能な冷凍食品輸送を両立させるには「幹線輸送のモーダルシフト化とトラック・鉄道・船舶などの同一ルートの複数線化」が対策になりえると結論付けました。また、通常モーダルシフト化する輸送距離はトラックドライバー1名が1日で走れる走行距離と代替輸送手段とのコスト比較から約500km以上と考えられますが、環境対策を優先する事を確認し、以下の取り組みを進める事にしました。

- ① 400km 圏内の中距離輸送に鉄道コンテナ輸送を導入する（関東→東北）。
- ② 500km 以上の幹線輸送にはトラック、鉄道、船舶の輸送モードで複数線化を図る。
- ③ まずは味の素冷凍食品株式会社九州工場（佐賀県佐賀市）（以下、九州工場）の設備改修を行い、全ての製品輸送のパレット化を図る。

400km 圏内の中距離輸送の 鉄道コンテナ導入について

これまで関東（千葉県野田市）～東北（仙台市宮城野区）の輸送は全てトラックでまかなっていました。環境対策と複線化施策で同ルートに冷凍31フィートコンテナ（以下、31ftコンテナ）輸送導入の検討を開始したが、課題が山積していました。

- ① 冷凍31ftコンテナの準備
 - ② 希望する列車の輸送枠の確保
 - ③ 到着貨物ターミナル（仙台貨物ターミナル）での31ftコンテナの取扱い制限
 - ④ バラ積みに対応出来る集配ドライバーの確保
 - ⑤ 納品先倉庫の入場時間制限
- などであり、それぞれの課題に対して関係各署との交渉並びに折衝を重ねる事で解決に繋げていきました。

- ① 通運事業者と連携を重ね、スタート時は冷凍31ftコンテナを3基/週を確保、定期輸送化する事で実績を重ね5基/週まで増加させた
- ② J R 貨物・通運事業社との連携により、3基/週の輸送枠を確保、定期輸送化する事で実績を重ね5基/週まで増加させた
- ③ 仙台貨物ターミナルは駅を中心に跨道橋があるため、31ftコンテナの取扱いに制限があった。そこで、列車のコンテナ積み位置の変更や駅構内の作業段取りの変更等の協力を頂き、31ftコンテナの取扱い増を可能とした
- ④ 開始当初は積載するアイテムを5アイテム以下にし、積み込み/積降ろし時の作業負担を低減させる事で集配ドライバーを確保（集配ドライバーの習熟度合いを勘案して徐々にアイテム数を増加させた）した

<関東→仙台的ネットワーク図>



- ⑤ 積載アイテムを絞った事により荷降ろし時間を短縮させ、トラック輸送ではAM7:00到着が条件であったが、冷凍31ftコンテナはAM8:00までの到着とした

この様に冷凍の中距離鉄道コンテナ輸送はひとつひとつ段階をクリアしながら、関係各社様の協力を得る事で実現する事ができました。



工場設備改修による更なるCO₂ 排出量の削減と幹線輸送の複々線化

従来の九州工場から関東地区への移動にはトラック輸送と鉄道コンテナ輸送を併用していたが、バラ積みバラ降ろし等の制約条件により10便/週に限定され、船舶トレーラー輸送に関してもさまざまな理由により導入できず、CO₂排出量の削減にも行き詰まっていました。従来通りの運び方のままでは、いずれは商品を運べなくなる危機感を両社ともに持っていました。

従来の製品輸送の課題は、

- 1) バラ積みのため、1台の積み込み時間がトラックで約2時間、トレーラーでは約4時間の時間が必要であった
- 2) 夏季のトレーラーでの積み込み4時間では商品の解凍リスクが高かった

- 3) バラ積み(過酷な作業)が出来るドライバーが極端に減少していた
- 4) 船舶輸送の導入には、海上トレーラーの場合、九州工場～新門司港まで約135kmの陸送距離があり、交通渋滞等で出港時間に間に合わないリスクがあった

<従来の九州→関東への製品輸送>



これらの課題解決には積み込み時の作業軽減が必要でした。

もともと九州工場は幅1.5mの鉄製の特殊パレットを使用しており、そのサイズに合わせたパレタイザーを導入しており、工場内倉庫も同様に鉄製パレットに合わせた格納ラックのサイズでした。そこで、味の素冷凍食品株式会社は本格的にパレット輸送を導入するため工場設備の改修に着手する事を決断しました。

両社は、工場の設備改修(2022年9月完成)を機会に製品輸送をパレット化する事で合意し、

- ① ルート毎にトラック・鉄道・船舶での複々線化を検討し、コスト、リードタイム、輸送頻度を含めた難易度を共有



- ② トラック、通運事業者、船舶事業者との交渉および折衝の実施

- ③ 待機時間を発生させない仕組み作りの構築(前日までに入場時間を、工場 ⇄ 物流事業者 ⇄ 実輸送会社間の情報共有)をする

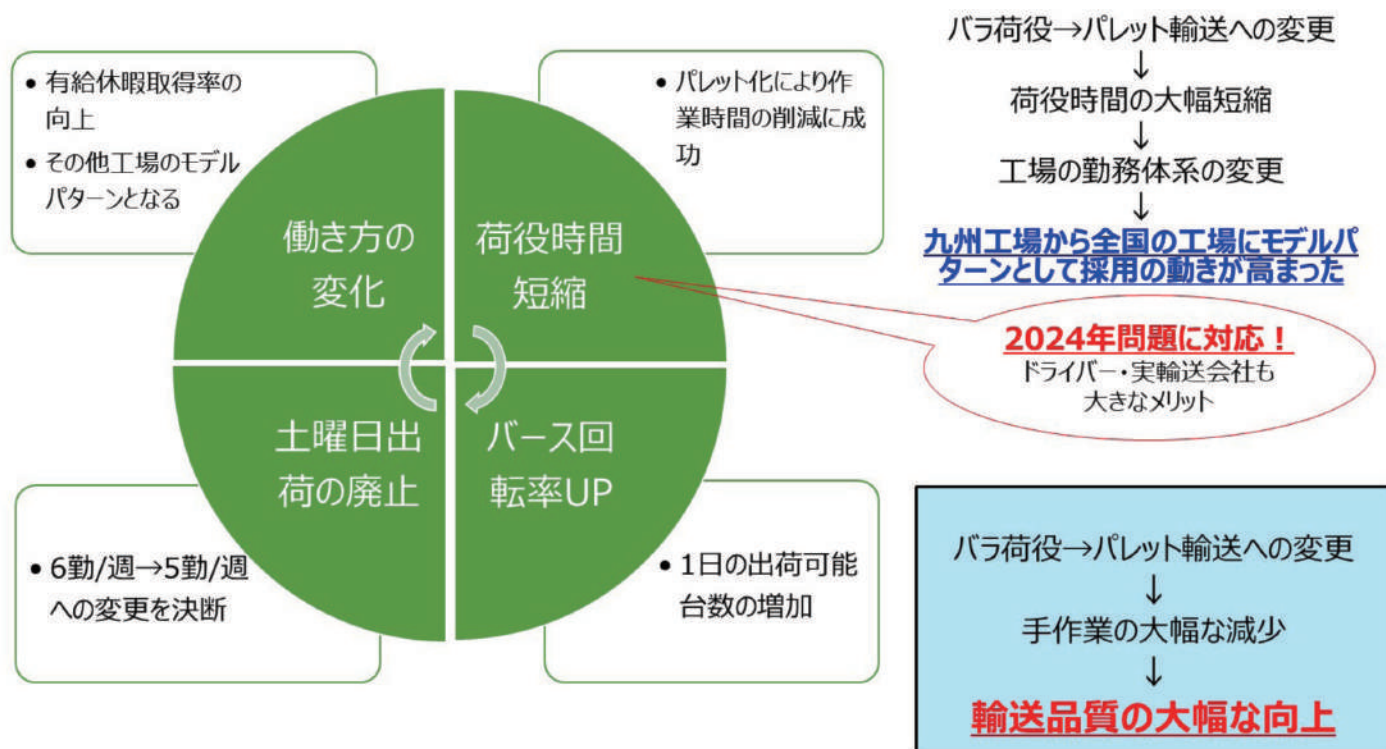
など、課題の共有と複数回のトライ＆エラーを繰り返していきました。結果、工場の改修工事完了と同時に鉄道コンテナ輸送の増便と船舶輸送が開始された事により、CO₂排出量の削減と輸送モードの複々線化が実現した事で、BCP対策も兼ねた環境にやさしい持続可能な冷凍食品の幹線輸送ネットワークを構築する事ができました。

環境課題への取り組みの副産物

この取り組みによって、まずドライバーの手作業が減り、ハンドリングミスによる商品事故の発生率が大幅に削減し、輸送品質が飛躍的に向上しました。

<現在の九州→関東の製品輸送ネットワーク図>





また、荷役時間が短縮した事で倉庫のバース回転率が向上、更には1日の出荷可能台数が増加するなど好循環に転じ、工場の土曜日出荷の廃止（6勤/週→5勤/週）に繋がり、工場で働く従業員の有給休暇取得率も向上、働き方が大きく変化する事となりました。

しかも、この九州工場の取り組みがその他の工場のモデルパターンとなり、取り組みを拡大する風土が醸成される契機となりました。

最後に

今回の取り組みは、課題を解決するための改善を繰り返しながらも「持続可能で地球環境にやさし

い幹線輸送の実現」という考えの軸をぶらす事なく進められた事、また、荷主である味の素冷凍食品株式会社の強い意志とJR貨物様、通運事業者様、船舶会社様の多大なるご協力とご支援を頂いた事により実現が可能となりました。

この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

今後、2024年問題を契機に物流を取り巻く環境は我々の想像を超えたスピードで変化していく事と思われます。今までの当たり前に進めていた事や過去の成功事例だけでは通用しない場面が出てくると考えます。そこで、私たちはこれからも常に新しい視点と発想を持ちながら、持続可能な幹線輸送の実現に向けた取り組みを進めて行きます。

Eat Well, Live Well.



味の素冷凍食品株式会社



価値ある物流品質を、ずっと。
F-LINE株式会社

第1回

「モーダルシフト優良事業者大賞表彰」 募集のお知らせ

(一社)日本物流団体連合会では、7月1日より、第1回「モーダルシフト優良事業者大賞表彰」の応募受付を開始しております。応募要項と申請書は、7月1日より当連合会のホームページより、ダウンロードできます。

応募要項と申請書

<http://www.butsuryu.or.jp/public/shift>

申請内容は末尾の事務局宛てにメールにて送付してください。物流事業者も、荷主企業も、単体でも共同でもご応募可能です。ぜひ御社のお取り組みをアピールしてください。

モーダルシフト優良事業者大賞表彰 各賞の概要

モーダルシフト優良事業者大賞

最も秀逸な成果を達成した事業者

モーダルシフト優良事業者賞

各部門に該当する特に優れた取り組みを実施した事業者

革新的取り組み 部門

革新的、先駆的な
モーダルシフトの取
組みを行った事業者
へ授与します

【例】

先駆的な輸送商品・システムの開発や革新的な輸送機器の活用等によるモーダルシフトの実現

連携・協働 部門

荷主や物流事業者の
連携・協働により、
多くの関係者を巻き
込むモーダルシフト
を実現させた事業者
へ授与します

【例】

多くの関係者で連携し、貨物、輸送区間、輸送モードの幅広い組み合わせ等によるモーダルシフトの実現

継続拡大 部門

継続的に鉄道・海運
による輸送量や利用
比率を向上させ、今
後もその向上が見込
まれる事業者へ授与
します

【例】

全社的な推進体制の設定や関係者間の連携等によるモーダルシフトの継続的な拡大の実現

環境負荷低減 部門

温室効果ガスの排出
量削減など環境負荷
低減を実現した事業
者へ授与します

【例】

モーダルシフトにより、従来と比較し、温室効果ガスの排出量の削減や排出削減率の低減を実現 等

効率化・省人 化部門

輸送の効率化、省人
化等に関して成果を
挙げた事業者へ授与
します

【例】

モーダルシフトにより、従来と比較し、トラック運転時間等の削減、輸送体系効率化の実現 等

モーダルシフト取り組み特別賞

選定委員会が特別に選出した取り組み

モーダルシフト取り組み奨励賞

モーダルシフトに積極的に取り組んだ事業者

スケジュール

- ◆ 令和6年9月30日(月) 応募受付締切
- ◆ 令和6年10月下旬 選定委員会にて表彰案件選定
- ◆ 令和6年12月上旬 受賞企業公表、表彰式開催(予定)

提出先・
問い合わせ先

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-3 (全日通霞が関ビル5階)
(一社)日本物流団体連合会 モーダルシフト優良事業者大賞表彰 事務局
電話 (03)3593-0139 事務局 小林(kobayashi@butsuryu.or.jp)



令和6年度 『物流業界 研究Webセミナー』 を開催

物流連では、平成26年9月（2014年9月）より、主に就職活動を控える学生に、「物流業の社会的重要性や先進性などに対する理解を深め、業界の魅力を感じてもらうこと」を目的として、毎年夏に「物流業界インターンシップ」を開催してまいりましたが、学生の就職活動の早期化に対応するため、今年度より開催時期や運営方法の見直しを行いました。その内容としては、主にインターンシップや仕事体験の参加を目的とする若い世代（大学生）を対象とし、従来の目的に対して、「インターンシップや仕事体験に参加する物流企業を発見する機会を提供すること」を新たな目的として加えた上で、今年度は「物流業界研究Webセミナー」を開催いたしました。

物流業界研究Webセミナー

セミナーはWeb形式で計3回開催し、6月に1回、7月に2回実施しました。

1回目は6月19日に会員企業27社と共同で開催し、学生162名が参加。2回目は7月4日に会員企業28社と共同で開催し、学生207名が参加。3回目は7月20日に会員企業20社と共同で開催し、学生209名が参加いたしました。

合計では出展企業は34社、参加学生数は578名（重複者除く550名）となり、昨年実施した「物流業界インターンシップ」と比較すると、200名以上の増加となりました。

冒頭に河田理事長の開会挨拶に続き、山田事務局長より当日参加する各社の特徴等を含めた「物流業界の現状と未来、求める人材像」と題した講演を行いました。その後、会員企業による企業説明を全10クールの中で毎回4～6社が別回線にて実施し、学生は自由に企業ルームへ入室し、陸・海・空・倉庫・フォワーダー等、多業種で構成される物流企業の会

社概要や事業内容、インターンシップ等の様々な情報を収集していました。

特別プログラムとして、会員企業の若手社員で構成された「物流いいとこみつ隊」による『トークセッション』では、物流業界を目指した志望動機や仕事のやりがい、経験談が披露され、生の声を学生に伝える機会となりました。また、新たな取組みとして、事前に質問を集め当日投票で決まった質問に答える『投票形式ぶっちゃけ質問会』を実施し、普段直接質問しにくいような質問も選ばれ、各企業のリアルな事情を知ることができる機会となりました。学生からのアンケートでは、1日で多くの物流業界の企業を知ることができ、非常に貴重な時間であったとの声が多く寄せられ、セミナーの満足度は94%となりました。

当連合会では引き続き、「物流を等身大で見ただく」取り組みを行い、物流業界で活躍する人材の獲得・育成を目指して、さまざまな活動を進めてまいります。

参加学生数

6月19日(水) 162名 【男性72名(44.4%) : 女性 90名(55.6%)】
7月 4日(木) 207名 【男性84名(40.6%) : 女性123名(59.4%)】
7月20日(土) 209名 【男性74名(35.4%) : 女性135名(64.6%)】

3日間合計
参加学生数

578名

(重複者含まない550名)

参加企業(3日間合計:34社)

6月19日(水) 27社

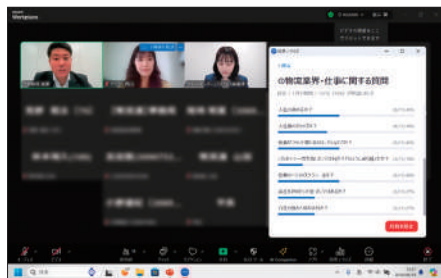
SBSフレック／NRS／NX商事／花王ロジスティクス／ケイヒン／鴻池運輸／
佐川グローバルロジスティクス／鈴与／西濃運輸／セイノースーパーエクスプレス／センコー／
第一貨物／東洋埠頭／トナミ運輸／ニチレイロジグループ／日新／日鉄物流／
日本貨物鉄道(JR貨物)／日本梱包運輸倉庫／日本パレットレンタル／日本ロジテム／
福山通運／丸運／丸全昭和運輸／ヤマタネ／ユーピーアール／ロジスティード

7月4日(木) 28社

イーソーコドットコム／上野トランステック／ANA Cargo／SBSフレック／NX商事／
F-Line／花王ロジスティクス／鴻池運輸／佐川急便／佐川グローバルロジスティクス／
鈴与／センコー／第一貨物／東洋埠頭／トナミ運輸／ニチレイロジグループ／日新／日鉄物流／
日本貨物鉄道(JR貨物)／日本梱包運輸倉庫／日本通運／日本ロジテム／福山通運／丸運／
丸全昭和運輸／ヤマタネ／ユーピーアール／ロジスティード

7月20日(土) 20社

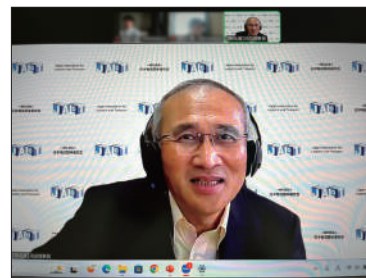
イーソーコドットコム／SBSフレック／NRS／NX商事／花王ロジスティクス／鴻池運輸／
佐川急便／佐川グローバルロジスティクス／山九／セイノースーパーエクスプレス／センコー／
第一貨物／東洋埠頭／トナミ運輸／ニチレイロジグループ／日鉄物流／日本ロジテム／
福山通運／丸運／ロジスティード



6月19日 【投票形式】ぶっちゃけ質問会.psd



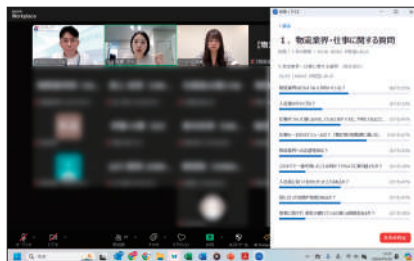
6月19日 トークセッション



理事長挨拶



7月20日 企業説明



7月20日 特別プログラム 質問会



講演会



7月4日 特別プログラム(ぶっちゃけ質問会)



7月4日 特別プログラム(トークセッション)



7月4日 企業説明



会員企業をたずねる

女性の力、女性の声

このコーナーは、会員企業をたずね、物流業界で働く女性社員に業務内容や、職場の取り組み、個人の抱負などを語ってもらうコーナーです。



第41回

第一貨物株式会社

人事部採用グループ

井澤 未空さん

PROFILE

大学卒業後、就職情報会社に入社し、山形県内の法人営業を担当。2024年1月、第一貨物㈱入社。人事部採用グループに配属され、現在に至る。山形県出身。小学生から陸上、チアダンス、エレクトーンを始め、中学では陸上部、高校ではチアリーダー部に所属し活躍。休日は地方に向き競馬観戦を楽しむ。

採用のその先の業務を希望

——御社に中途入社された経緯について教えてください。

新卒で入社したのは就職情報会社です。山形県内に位置するお客様企業の採用業務に携わりました。さまざまな業界のお客様との関わりも深く、とても充実していたのですが、経験が蓄積されるにつれ、採用のその先にある業務にも携わりたいという思いが出てきました。また、結婚の予定をきっかけに自分自身のライフプランをあらためて考え、全国転勤が伴わない会社に勤めたいと思ったことも、転職を志望した理由の一つです。物流企業を担当していた中で、物流が社会にとって不可欠な仕事だと実感し、物流業界に興味を持ちました。第一貨物については、当時の担当だった同僚から「採用・育成に力を入れている会社」と聞き、当社なら新たな挑戦ができると考え、転職を決意しました。

——担当業務について教えてください。

インターンシップ、説明会等の開催、応募書類管理、選考面接など大卒の新卒採用に係る業務を中心に携わっています。毎年100名以上の新卒採用を行っているため、多い日は5～6名ほどの面接を行います。そのほか、会社全体の採用数・退職数のデータ作成やタレントマネジメントシステムのプ

ロジェクトに参加しています。また、繁忙期には事業所へ業務応援に出向き、お客様から集荷依頼を受けたり、物流管理担当者と集配ドライバー職に情報共有したりしています。

——転職された感想を教えてください。

まだまだ覚えることも多く大変なこともありますが、毎日がとても充実しており、転職して良かったと思っています。来年初旬に第1子を出産する予定です。入社早々、産休・育休を取得することを心苦しく思っていたのですが、周囲の皆さんがとても温かく受け入れてくださいました。実際に子供がいる女性社員も多く、産前産後育児休暇からの復帰率が第2子以降も含めて100%という環境も心強いです。女性活躍推進に限らず、社員の個人の事情に寄り添い、成長をサポートしてくれる会社だと感じています。

物流の魅力を伝えることにやりがい

——仕事をする上で、どんなときにやりがいを感じますか。

「物流」は目には見えないけれども、社会において非常に大きな役割を担っています。その魅力を学生の皆さんに伝える仕事をしていますので、相手に伝わったと実感できたときにやりがいを感じ

ます。新入社員から「もともと物流業界に興味なかったが、第一貨物の説明会や見学を通じて物流に携わりたと思った」と聞き、うれしく思ったことがあります。今後も、物流業界のファンが1人でも増えるよう努めていきたいです。

——仕事に臨む際に心がけていることを教えてください。

前職の経験から、社内外を問わず、「バッドニュースファースト」を心がけています。自分や当社にとって不都合なことほど、相手にとっては必要な情報だったりすることがあります。可及的速やかに共有するようにしています。

——現在、抱えている課題などがありますか。

自分自身の物流に関する知識不足です。毎日業界紙や日経新聞などに目を通していますが、物流業界のトレンドの移り変わりは速いので、スピード感についていけるよう努めています。社内の研修制度を使って、衛生管理者の資格や運行管理者の資格取得にも取り組みたいと考えています。

——オフタイムの過ごし方について教えてください。

定時退社が多いので、帰宅後は愛犬の散歩や夕食の準備をします。休日は、新潟競馬場や福島競馬場に行ったり、キャンプに行ったりしています。有給も取りやすいので、長期休暇を利用して国内旅行に行くときもあります。



採用説明会で学生に説明する井澤さん



愛犬と一緒に楽しむ
オフタイム



——今後の抱負をお聞かせください。

物流業界で活躍する女性のロールモデルになりたいです。将来的には、「バリキャリワーママ」になるのが目標です(笑)。担当業務においては、まずは採用業務を突き詰め、今後は研修制度のプログラム改定などにも携わりたいと考えています。

——ありがとうございました。

会社概要

第一貨物株式会社

本社(山形)：山形県山形市諏訪町二丁目1番20号

本社(東京)：東京都江東区塩浜一丁目2番2号

中央研修所、第一貨物流通技能専門学校：山形県天童市大字芳賀895番地

設立：1941年

代表者：代表取締役社長 米田 総一郎

拠点数：国内約150カ所、海外2カ所(2024年6月現在)

従業員数：約5,500名(2024年6月現在)

【事業概要】

83年の歴史の中で、拠点を北海道・東北・甲信越・関東・中京・関西に広げ、物流の全国ネットワークを形成。現在はアジア圏を中心に海外にも進出している総合物流企業。主な事業は、貨物輸送サービス、ロジスティクス・サービス(3PL)、国際事業(国際フォワーディングサービス・通関)。同社の人材育成と企業内学校(流通技能専門学校)の役割を担う中央研修所は1962年に創設。本年3月、リニューアルオープンを迎えた。



東京支店

「インドのビジネス環境と機会」に関する講演会を開催

令和6年度 第1回海外物流戦略ワーキングチーム会合を実施

7月18日（木）、全日通霞が関ビルにおいて、令和6年度第1回海外物流戦略ワーキングチーム会合を実施しました。

物流事業の海外展開に関する課題を官民連携で検討するもので、会合には会員企業や国土交通省から46名（内15名がオンライン）が参加しました。

「インドの地域別特性や同国の多様性、人口構成の特徴など」を講演

令和6年度のワーキングチームでは、物流業界のグローバル化を進める上で重要な「インドの物流事情」について調査を行いました。

会合に先立ち、日本貿易振興機構（ジェトロ）調査部の河野様と深津様を講師としてお招きし「インドのビジネス環境と機会」と題し講演が行われました。講演会には一般聴講（オンライン）を含め147名が参加しました。

講演は、はじめにインドの経済概況について触れ、市場動向をGDPデータ等用いて詳しく説明されました。2023年の世界からの直接投資額は減少しましたが、日本からの投資は増加傾向にあり、IT分野以外でも有能な人材が豊富であり、日本企業はインド市場に対する関心を多様化する必要があると締めくくり、講演は終了しました。



講演されたジェトロ河野氏（左）、深津氏（右）

国土交通省から国際物流政策の取り組みについて説明

講演会に続き実施された海外物流戦略ワーキングチーム会合では、国土交通省物流・自動車局国際物流室課長補佐の古田氏から「最近の国際物流政策の取り組みについて」説明がありました。具体的には、国際物流室の業務概要についての説明と物流事業者の海外展開促進に関する取り組み状況を報告いただきました。

続いて、事務局から今年度の当ワーキングチームの活動計画について説明し、今年度のインド物流実態調査を2年にわたって調査を行う方針を提案しました。参加メンバーの合意により、令和7年度末に調査報告を完了させることを確認しました。最後に事務連絡を行い、今年度最初の会合は終了しました。



最近の取り組みを説明する
国土交通省
古田真敏氏



会合の様子

2023年度版「数字でみる物流」のご案内

2023年度版「数字でみる物流」概要

A 6版 ポケットサイズ

2024年3月刊

定価946円(税込み・送料別)

- I.物流に関する経済の動向 II.国内物流の動向
- III.国際物流の動向 IV.輸送機関別輸送動向
- V.貨物流通施設の動向 VI.貨物利用運送事業の動向
- VII.消費者物流の動向 VIII.物流における環境に関する動向
- IX.物流企業対策 その他「総合物流施策大綱」等参考資料

数字でみる物流

2023年度



発行 日本物流団体連合会
発行所 日本物流団体連合会
発行所 日本物流団体連合会

当連合会 最近の活動状況

2024年

- 6月 11日 改正物流法説明会
- 6月 19日 物流業界研究Webセミナー 1回目
- 6月 28日 令和6年度定時総会 第2回・3回理事会 懇親会
物流環境大賞表彰式
- 7月 4日 物流業界研究Webセミナー 2回目
- 7月 10日 第2回情報交換会 施設見学会
- 7月 18日 第1回海外物流戦略WT
- 7月 20日 物流業界研究Webセミナー 3回目
- 8月 28日 第2回物流いいところみつけ隊会合
- 9月 4日 物流・ロジスティクス入門講座
- 9月 10日 第1回経営効率化委員会
- 9月 10日 物流現場業務改善の実務
- 9月 17日 物流コスト管理入門セミナー

編集後記

地震や台風が心配で、我が家は災害対策として蓄電池とソーラーパネルを取り付けました。停電しても数日はエアコンを稼働できますし環境にもよさそうです。もっとパワーアップさせたいのですが、色々いじるには資格が必要なので電気工事士免許を取得しようと勉強中です。(T・Y)

ちょっとした病気で、数日、入院することになりました。ベッドで甲子園の高校野球を見ながら感じたのは、月並みですが、やはり健康が第一ということです。まだ残暑が厳しいところもあるかと思いますが、ご自愛されてのご活躍をお祈り申し上げます。(K・Y)

表紙の写真

テーマ
「明日に
つながる」



千曲川の支流をまたぐ20径間連続アーチ橋

上信越自動車道の橋の一つである上田ローマン橋は、東部湯の丸インターチェンジと上田菅平インターチェンジとの間に位置し、一級河川・信濃川水系神川に架かる、全長714.5mのRC20径間連続アーチ橋。RC連続アーチ橋としては、径間数、橋長とも国内最大級。その姿が古代ローマの水道橋を連想させることから「ローマン橋」と名付けられた。